保健師最前線

特定健診・保健指導も

広く市民の健康づくりの観点で

福知山市　今田　惠子さん

　春からの医療保険制度改革で焦点になっている特定健診･保健指導の準備と計画策定のため、昨年４月、保険課に配属された。どのように実施するのか、手探り状態が続くが、目標は設定され、期日は迫ってくる。

　課題の一つは、受診率を目標に向かってどのようにして引き上げるか。対象の被保険者が受けやすくする態勢をどう整えるか、健診の期日や会場、依頼先との調整など難題が多い。健診のあとの保健指導についても、どのように指導するのか。「積極的支援」「動機付け支援」ともかなりの時間がかかると予想される。

「健診の質もレベルが下がらないようにしたい。現在は医療保険者として取り組んでいますが、さらに広く市民の健康づくり事業につながるように考えていきたいんです」

　今回の制度改革はかなり大きな変化を伴うため、現段階では市民への周知徹底も課題だ。広報誌への掲載はもちろんのこと、市民を対象にした、きめ細かい説明会の開催も計画している。

「特定健診・保健指導だけでなく、後期高齢者医療制度などもふくめて大きな変化がありますから、十分説明する必要があります」

　今田さんは市の保健師の中では中堅。保健センターのほか職員課で職員の健康管理にも携わってきた。それらの経歴が、関係各部署の調整が必要な現在の仕事に生かされている。

「いろいろな部署で仕事させていただいたことが、今の仕事につながっています」